とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話1351番
本紙購読料　1部25円　1カ月75円　1カ年前納750円

足寄から立起の動き

次期道議選へ

明後年に迫つた道議選にたいして各地区でもそろそろ立起の顔ぶれが話題となつているおりから、十年ぶりで足寄町から若手新入の登場が実現するのではないかとみられています。

その人（特に名を秘す）は北海道第五区選出のA代議士に直結する十勝選出のB道議の次期勇退にともなうあとがまとしてA代議士から強く出馬を求められており、目下のところ本人としてはこの要請を受けて立起すべきかどうかの決断を迫られているといわれています。

というのは、A代議士としては直系のB道議の勇退を見越して、同派の地盤擁護をはかるために支持層のなかからその後継者を物色していましたが、出身学校の線と管内的に手広い業界のつながりをもつ足寄町の少壮実業家に白羽の矢を立てたもので、その口説き落しも大詰めに入つているようです。

本別、足寄、陸別の三町を基盤にして昭和三十四年に新人の岡崎光三氏が自民党公認で初出馬で見事に当選した実績があるだけに、十勝東北部の三町を草刈り場にしておくべきでない、党派を問わずに三町のなかから一名だけの立起なら冒険ではなく可能性はあるのだから、身近かのだれかであつても議席をもつことは地域のためにはプラスであるとして、この立起の動きは注目されますが、問題はB道議勇退が前提となつているようです。

計画審議会のメンバー

足寄町では小林町政が登場した昭和四十二年七月に足寄町総合計画審議会を設けて町づくりを促進するために町の現状がどのような段階にあり、どのような課題をかかえているか、そしてこんごどのような方向にもつていかなければならないか、などについて諮問しました。

審議会は会長大塚正夫、副会長湯浅義雄、事務局長谷忠光

総務部会（◎部会長、○副部会長、△事務局長）

◎宮口政雄、○栗村敏、大滝弥助、土田今吉、日裏庄太郎、多田梅松、△富田秋雄

産業部会　◎神本三家雄、○柿原道喜、吉田吉之助、斉藤祐一、家田良一、佐藤登喜雄、遠山謙、岩崎幸雄、斉藤栄助、中仙道忠雄、星孝一、△小泉鶴雄

建設部会　◎北沢勇吉、○高本幸英、矢野寛一、神義光、野口忠義、斉藤昇、古谷敏、巌和衛、三原幸雄、△松平京

文教厚生部会　◎鳴海一郎、○谷口孝、藤村与作、斉藤二、三宅隆義、我妻茂治、網頭ハル、宮崎利博、木村中、△岡靖

商工観光部会　◎久保正夫、○新津幸助、松崎稔、柴田栄一、大通健三、桑島武彦、日景健次、安久津義人、大原茂、△小泉鶴夫

の諸氏によつて構成され、北海学園大学の経済学部長蛯名賢造博士の指導、助言を得て、一年三カ月の日数をかけて百八十四頁にわたる「足寄町総合開発計画」として、こんご十年間の町政運営の大綱をまとめあげたものです。

バラ色の夢はないがー

したがつてこの計画書は政治家としての小林町長が自分の政策としてかかげたプランではなくて、町内各層の有識者があつまつて町の現状を客観的にとらえてこの現状からすれば将来はこうなるだろうという常識的な展望を作文化しただけで、そこにはバラ色の夢がもられているわけではないので、せつかくかなりの日数と費用をかけたのに計画に具体性がないと失望する向もありますが、この計画をいかに肉づけし具体化するかはそのときの理事者の手腕、力量や町議会の協力いかんによるものといえましょう。

開発計画の基本構想

この開発計画の基本構想としては

一、本町は十勝の東北部にあつて東は阿寒町と白糠町、西は上士幌町と士幌町、南は本別町、北は陸別町と置戸町に隣接し、総面積一、四〇〇・六九㌶の八二％は山林でありそのうち国有林が七二、一％を占め、農地としての活用はわずか一三、二％である

二、農耕地は足寄川、利別川、美里別川の流域に帯状に開拓され土壌は火山灰土壌と泥炭土壌であり気象環境からくる低温、長雨、集中豪雨、土壌凍結は生産性の低い要因となり一戸あたり七、六㌶の僅少な経営面積である

三、本町将来の基本的方向としては、町の基幹産業である高原酪農、農林業乳路線の早期整備と併せ除雪路線の認定を要望、町道中主要路線の道々昇を要望特に阿寒湖畔ー清水谷線（阿寒ーオンネトー線、ラワンー上ラワン線、ラワンー上利別線）は観光道路として昇格と併せて至急改良整備を要望、主要市街地町道の側溝、舗装とともに土木機械を充実する。鉄道については、白糠線の早期完成北十勝線の早期着工、阿寒線（ラワンー北見生間）の予定線採択、足寄駅舎の改築と広場の拡張。電話については電報電話局の設置、公衆電話の増設、無電話地帯解消のため全自動交換方式の農事放造施設（加入予定一千三百戸、事業費一億二千万円）

次産業の発展を面ることが考えられなければならない

としており、以下四章にわけて振興計画を打ち出しています。

基盤整備

土地利用　現在の農地九、六五〇㌶を五、〇〇〇㌶に拡大し現在の市街区域三五九㌶を五四九㌶にし用地の先行取得のため開発振興公社を設立する。

水利用　簡易水道五地区簡易給水八地区、無水農家環境整備二地区のほか市街上水道給水一一、五〇〇人に。

都市計画　区画整理事業は中部第一工区（公用廃止地）第二工区（東区、中央区、南区、旭町など）北部地区（西区、美盛、常盤）下愛冠地区、南部地区（足寄太、下足寄太）に実施高校台地に自然公園、中部地区に児童公園、川向豊栄橋下流の緑地に青少年広場を設ける。

交通、通信　国道二四一号線の市街地宇回、上足寄地区の舗装、両国橋に歩道橋を、同二四二号線の大誉地地区の舗装、上利別、足寄橋等に歩道の新設を、道々については特に通学集

（以下裏面へつづく）

向う十カ年の青写真

足寄 24・25日に議員協議会

足寄町の向う十カ年（昭和五十二年まで）の「総合開発計画書」ができあがりさる一月二十九日の臨時町議会に提出、報告されましたが、議会側から『報告をうけるだけでなく内容を審議すべきだ』（神本議員）『統計だけで計画性がない』（阿部議員）『十カ年の内容を充分に検討したい』（香川議員）などの発言がありました。

小駅の廃止

仙美里、大誉地 小利別など

○…ローカル赤字線の廃止を打ち出した国鉄の第二弾として、一日平均乗降客が八百名以下の駅は廃止するか無人駅とする、一日平均発着貨物が八十トン以下の駅も貨物取り扱いを廃止するというもので、こんご十年間のあいだにその対象とされているのは釧鉄局管内では四十駅に達し、池北線では高島、仙美里、上利別大誉地、小利別がそのヤリ玉にあがつているとのこと

○…これは十六万人合理化反対斗争に入つている国鉄労組釧路地本が発表したもので、釧路局長もこの四十駅の廃止、無人化案を暗に認めているように、国鉄財政再建推進会議の答申にもとずくもの。

○…経営が赤字となればおさだまりの人員整理と利用者へのシワヨセで切り抜けようとする国鉄の経済性優先のゆき方は地域格差を拡大する住民不在の現象。

○…国鉄の労働者にとつては大量の職場が失われる死活の問題であれば、関係地域の住民にとつてはこれまた日常の生活と営業に大きな支障をきたす事態となるので、ここに至つて国鉄労組だけの斗争ではなくて、党派や思想や保守、革新の立場を超えて地域ぐるみの斗争に立ちあがるべきとき。

○…積雪寒冷、広大なへき地でも、常に本州なみの採算ベースで処理されるのは真つ平御免。

カメラ
八ミリ
写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り
T四二〇

不動産についての御相談は
調査　売買　あつせん　管理　分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T三四五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二一番

建設木工電動工具
（日立、マキタ東和）
造林用刈払機
（共立、月立、イリノ）
（北の神印、当麻の鎌）
林業抜採用チエンソー
（スチールマツカラー、共立）
有限会社　鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　電話三〇七番